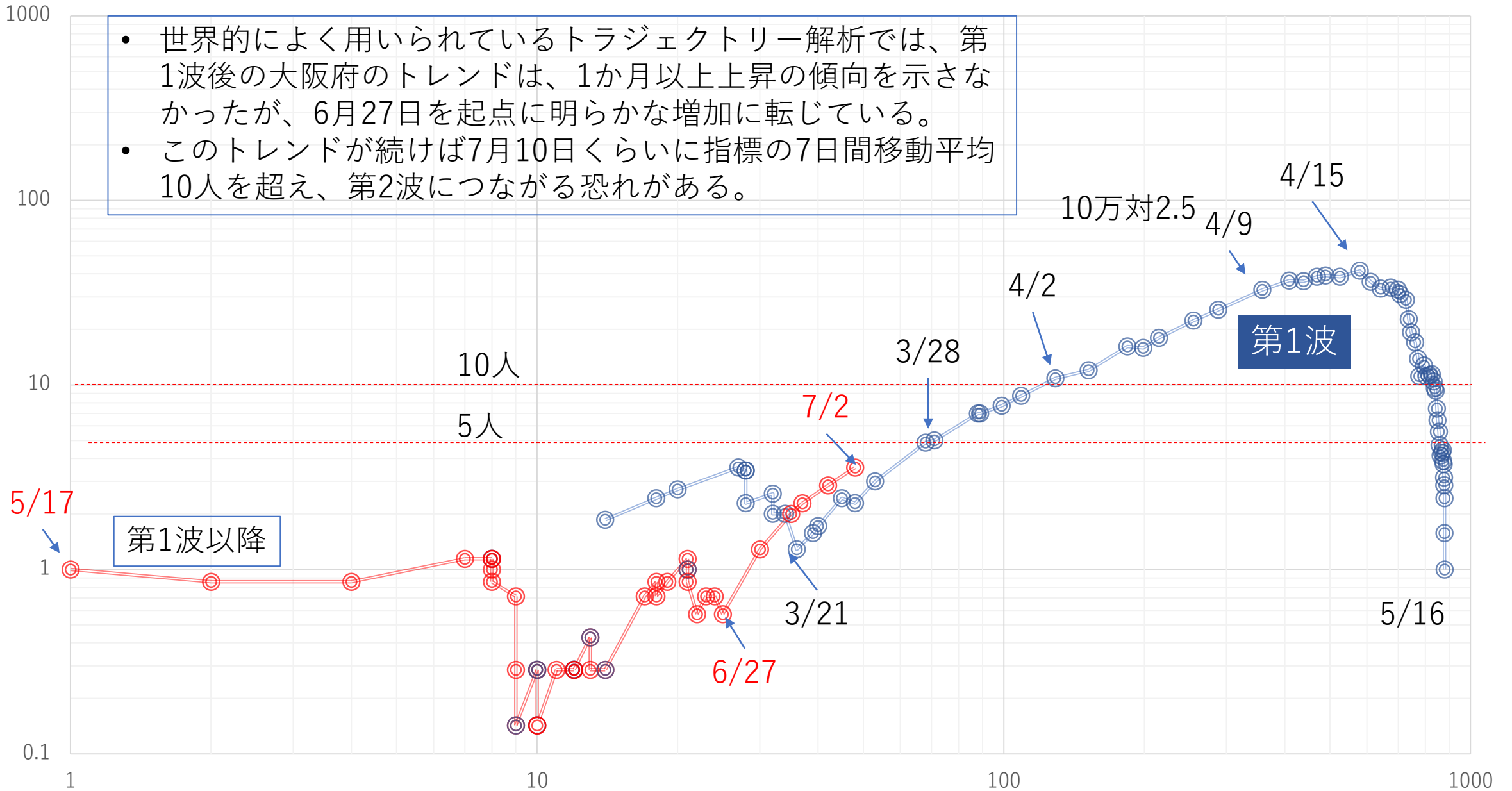


大阪府の経路不明感染者数のトラジェクトリー解析

- 世界的によく用いられているトラジェクトリー解析では、第1波後の大阪府のトレンドは、1か月以上上昇の傾向を示さなかったが、6月27日を起点に明らかな増加に転じている。
- このトレンドが続けば7月10日くらいに指標の7日間移動平均10人を超え、第2波につながる恐れがある。

経路不明感染者の7日間移動平均

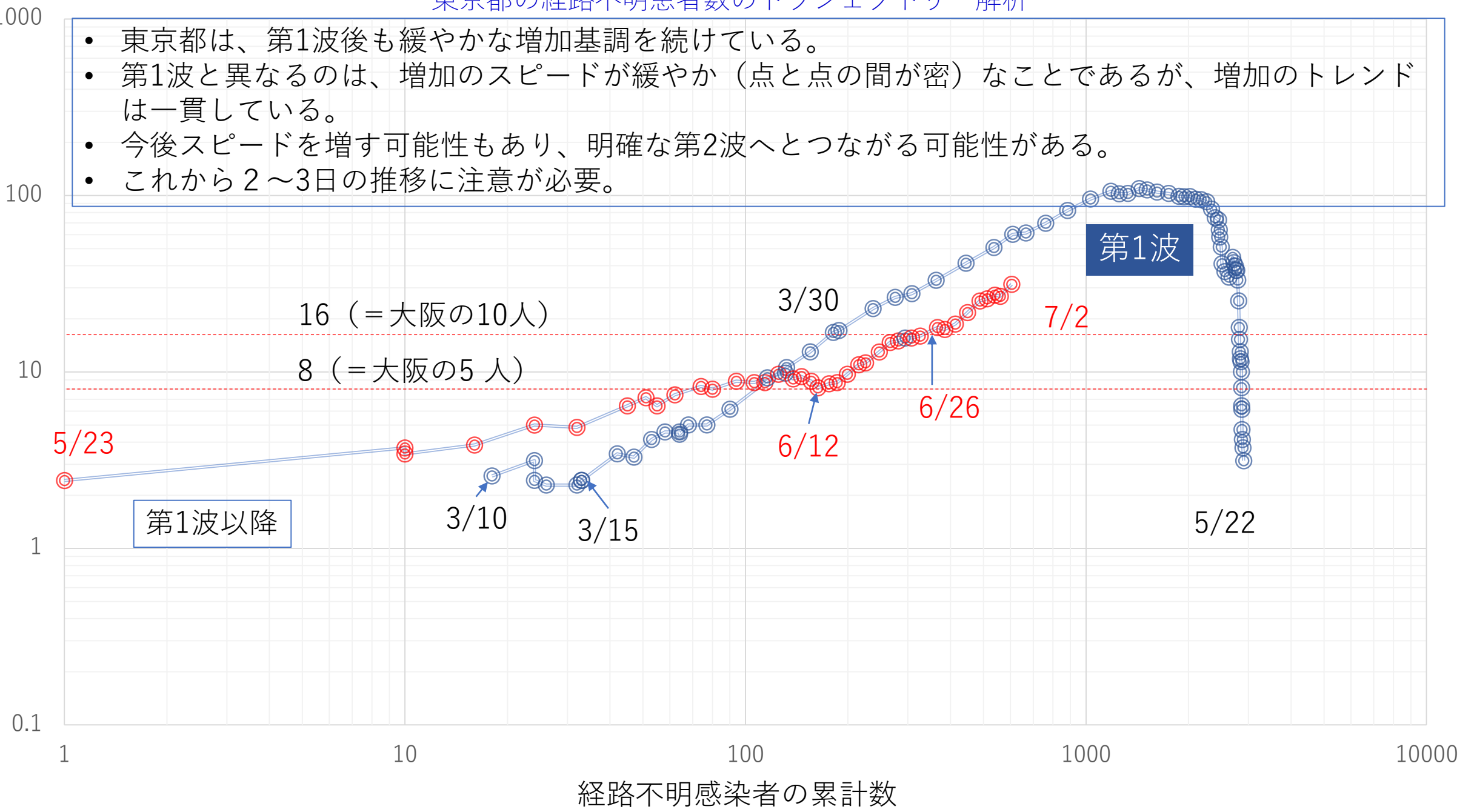


経路不明感染者の累計数

東京都の経路不明患者数のトラジェクトリー解析

- 東京都は、第1波後も緩やかな増加基調を続けている。
- 第1波と異なるのは、増加のスピードが緩やか（点と点の間が密）なことであるが、増加のトレンドは一貫している。
- 今後スピードを増す可能性もあり、明確な第2波へとつながる可能性がある。
- これから2～3日の推移に注意が必要。

経路不明感染者の7日間移動平均



経路不明感染者の累計数

- 増加のフェーズの早期探知には、数値だけではなく増加のトレンドが必要。
- トレンドを数値化することは難しい
- しかし、明確な数値化は、府民の感染対策への積極的取り組みの指標として重要な役割を担うために必須である

1. 市中での感染拡大状況（2段階にすることで感染者の増加のトレンドを表す指標とする）

- ① 経路不明感染者数の7日間移動平均 ≥ 5 、かつ対前週比 $\geq 1^*$ が4日間続く（1週間で2倍もしくはそれ以上になる速度、倍加時間3日前後）
- ② 経路不明感染者数の7日間移動平均 ≥ 10 、かつ対前週比 ≥ 2

* 対前週比1以下は、簡易的に実効再生産数 ≤ 1 と相関する

2. 病床のひっ迫状況（新規感染者数はクラスターを含むため、むしろ病床のひっ迫の指標とすることで経路不明感染者数との意義の差別化をはかる）

- ① 新規感染数の7日間合計 ≥ 120 、かつ直近3日間で半数以上（1週間で2倍以上になる速度。倍加時間3日以内）
- ② 重症患者の病床占有率 $\geq 50\%$
- ③ 重症患者用病床占有率 $\geq 70\%$

分析事項	モニタリング指標	府民に対する警戒の基準		府民に対する非常事態の基準	府民に対する警戒・非常事態解除の基準
		注意報*	警報		
(1) 市中での感染拡大状況	① 新規陽性者における感染経路不明者 7 日間移動平均前週増加比	注意報*	① 4 日連続 1 以上 かつ ② 5 人以上	—	② 10 人未満
	② 新規陽性者における感染経路不明者数 7 日間移動平均	警報	① 2 以上 かつ ② 10 人以上		
(2) 病床のひっ迫状況	③ 7 日間合計新規陽性者数	警報	120 人以上 かつ 後半 3 日間で半数以上	—	—
	④ 直近 1 週間の人口 10 万人あたり新規陽性者数	—	—	—	0.5 人未満
	⑤ 患者受入重症病床使用率	警報	50% 以上	70% 以上 (「警戒 (黄色)」信号が点灯した日から起算して 25 日以内)	60% 未満
【参考指標】 ⑥ 確定診断検査における陽性率の 7 日間移動平均		—	—	—	—

指標 (1) (2) の警報項目に基づき、専門家会議の構成員等の意見を聴取し、対策本部会議で「警戒 (黄色)」信号点灯の要否を決定するものとする。

* 注意報：特別の行動を推奨・要請しないが、増加のトレンドに入る兆しがあると府民に注意を促す